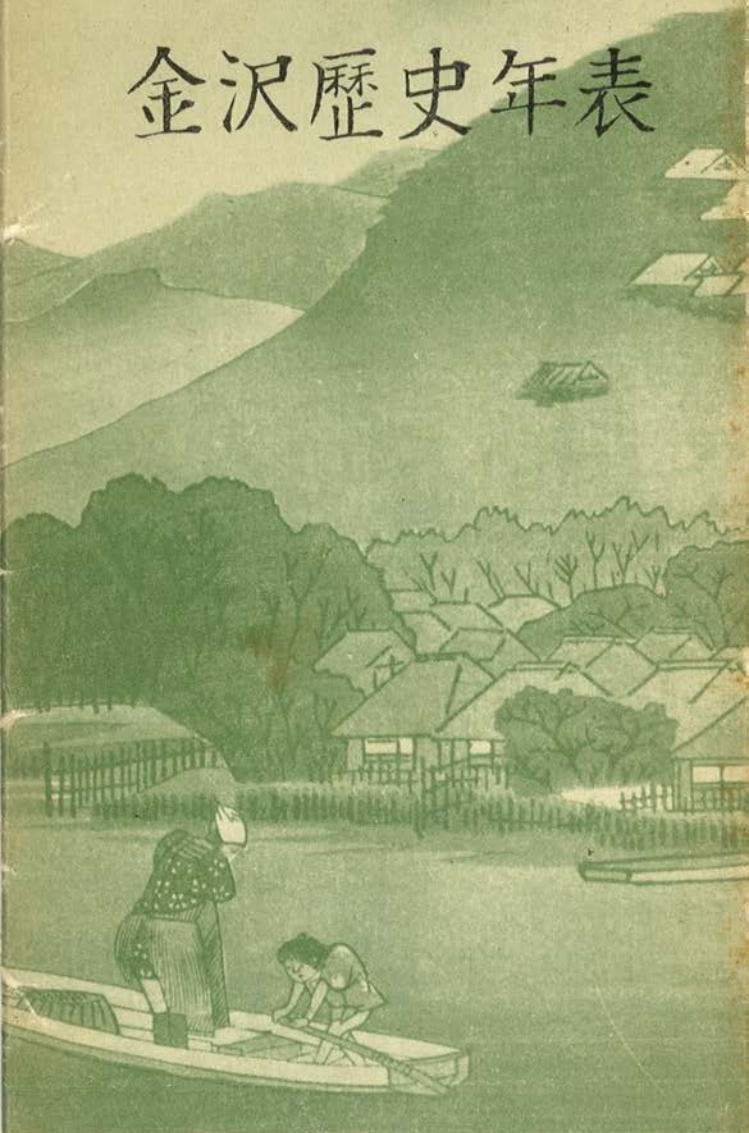


金沢歴史年表



横浜市金沢区役所
横浜市総務局総務課

は し が き

本年表は金沢区制五周年を記念して刊行したものであります。

その昔、画の名人巨勢の金岡をして絶倒させたといわれている史跡金沢の景勝は、古来から近江八景とともに、天下に喧伝されていたところであります。

その後、時代の推移に伴い、その内容において、幾多の変遷はありましたが、今なお、名所古跡の数多く知名の文人墨客の、この地に杖を曳く者は枚挙にいとまなき状態であります。

したがって、金沢に関する文献は数多く刊行されておりますが、これを年代的に取纏めたものがないことはまことに遺憾でありました。

この歴史年表は、これらの要請に応じて編集したもので、資料は数多くの古文書や、その他金沢に関する文献の中から、単に伝説的なものは割愛し、専ら、史実に照して明確な根拠があると推定されるものだけを選び、これを「横浜市史編集室」の校閲をうけて刊行の運びとなつたものであります。

本書が金沢区民の方々は勿論、諸賢の郷土史研究の参考となり、ひいてはわが愛する金沢区発展の一助ともなりますれば、望外の幸であります。

昭和 29 年 3 月

横浜市金沢区長 永 堀 豊

金沢歴史年表

1185 (元暦2・文治元年)

- * 源頼朝が瀬戸明神をたてた(伝)。おなじころ北条政子が琵琶島弁財天をたてた(伝)

1189 (文治5年)

- * このころ源頼朝が、文覚上人と志をあわせ六浦の山中に淨願寺をたてた(伝)

1191 (建久2年)

- * 源頼朝が富岡の鎮守(今の八幡社)をたてた(伝)
- * 源範頼が六浦の瀬ヶ崎に薬師寺をたてた(伝)

1193 (建久4年)

- 8. 24 源範頼が瀬ヶ崎の薬師寺(太寧寺)で自殺した(伝)

1205 (元久2年)

- 6. 22 畠山六郎重保が、北条義時と戦い討死した。釜利谷の六郎ヶ谷(トンネル附近)にある五輪の石塔はその墓といわれる(伝)

1219 (建保7年・承久元年)

- * 運慶が^{はつもうめん}拔頭面を瀬戸明神社に納めた。この面は源実朝の舞楽の面であつたといわれる

1228 (安貞2年)

- 4. 28 藤原頼経が六浦に遊覧した

1230 (寛喜2年)

- 3. 19 藤原頼経が三浦義村の案内で、三崎磯に遊覧したとき六浦から船でわたつた
- 11. 30 鎌倉と六浦間の道路を開く会議が幕府ではじめてあつた

1241 (仁治2年)

4. 5 鎌倉・六浦間の道路工事がはじめられた

5. 14 朝比奈切通がひらかれ鎌倉街道ができた

1254 (建長6年)

11. 日蓮上人と富木五郎とが船中間答を行つた。その上陸地と伝えられるところに、安立寺と上行寺がある

1258 (正嘉2年)

4. 23 北条実時が灌頂かんちやうの儀式を金沢の邸内で行つた

1260 (文応元年)

* このころ、北条実時が称名寺(念仏宗)をたてた

1268 (文永5年)

* 北条実時が極楽寺にんじやうの忍性にんじやうのすすめで、野州の薬師寺しんかいから審海しんかいを迎えて、称名寺を真言律宗に改めた

1269 (文永6年)

6. 5 一切経、青磁花瓶、おなじく香炉などを積んできた宋船3艘が六浦三艘泊についた(伝)

11. 7 北条実時が称名寺に鐘を寄附した

1273 (文永10年)

* 瀬戸堤内の入海の殺生が禁じられた

1275 (建治元年)

5 北条実時が金沢を別荘の地と定めた。実時は称名寺殿と号した

* このころ、北条実時が金沢文庫をたてた(伝)

1276 (建治2年)

10. 23 北条実時(53)が金沢の別荘で死んだ

1291 (正応4年)

9. 24 綱維こうい比丘賢恵けんゑいが称名寺三重塔(愛染堂ともいう)の供養をした

1297 (永仁5年)

2. 27 藤原秀吉が金沢寺(称名寺)で金銅の愛染像をつくつた

1301 (正安3年)

2. 7 北条顯時^{あきとき}が称名寺の鐘を改鑄した
3. 28 北条顯時(54)が死んだ
12. 6 峠村(今の朝比奈町)の淨林寺の開山葦航^{いこう}が死んだ
葦航は宿村(今の釜利谷町の一部)白山の東光寺中興の僧で、大興禪師という

1302 (乾元元年)

7. 23 杉田村東漸寺の開基、北条備前守宗長が死んだ。宗長は富岡に住んでいた

1304 (嘉元2年)

- * 称名寺の開山、審海(73)が死んだ

1310 (延慶3年)

1. 22 大仏^{おびらぎ} 陸奥守宗宜・北条相模守師時が信濃国太田庄大倉郷(地頭伝)を尼永忍の申請によつて称名寺に寄附した

1311 (延慶4・応長元年)

3. 22 金沢貞顯が称名寺の劔阿^{けんあ}に称名寺内の山林、山畠と金沢瀬戸内海の殺生を禁止するむねの自筆書状をあたえた
4. 26 寂尹^{じやくいん}が瀬戸明神社に石の鳥居をたてた

1319 (文保3・元応元年)

- * 瀬戸橋があたらしくつくられた

1323 (元亨3年)

2. 27 称名寺の七堂伽藍が完成した

1325 (正中2年)

- * 藤原貞泰が「大般若経」を富岡八幡社に納めた

1332 (元弘2・正慶元年)

2. 16 金沢武藏守貞将が下総国下河辺庄内赤岩郷・信濃国石

村郷、武蔵国六浦庄富田郷（今の釜利谷町）を称名寺に寄附した

9. 13 夜、称名寺の阿彌陀堂で連歌の会があつた
このころ、吉田兼好が称名寺にきて、歌の会に参列した（伝）

1335（建武2年）

6. 11 宿村の白山堂（後の東光寺）が称名寺に寄附された
このころから応永11年（1424）ころまで称名寺の末寺であつた（伝）
11. 7 六浦引越の泥牛庵をひらいた土雲（鎌倉円覚寺第17世）が死んだ

1347（正平2・貞和3年）

9. 18 夜、応長元年（1311）5月18日に海に流された長浜観音が、柴村漁民の手繰網に入り出現した。のちに称名寺赤門のかたわらにまつられた

1352（正平7・文和元年）

3. 3 足利尊氏が称名寺に金沢郷塩垂場などを寄附した
* 妙法日荷上人が杉田村大戸に妙法寺をたてた

1353（正平8・文和2年）

4. 27 称名寺第4代の実真が、六浦瀬戸橋の供養を行つた（伝）
6. 13 妙法日荷上人が死んだ（伝）

1362（正平17・貞治元年）

4. 20 兵部大輔代左衛門尉信斗から称名寺へ寺内の阿彌陀堂敷地および塩場の渡状が下付された
5. 24 高師有（陸奥守）から称名寺境内において乱暴狼籍禁止の制礼がだされた
10. 2 六浦の嶺松寺の開山と伝えられる月窓が死んだ

1363（正平18・貞治2年）

4. 16 足利基氏が金沢瀬戸の内海の殺生を先例によつて禁止した

1364 (正平19・貞治3年)

6. 7 左衛門尉政久から上総国周東郡下村半分と子安村(地頭職)が称名寺に返された

1371 (建徳2・応安4年)

4. 15 沙彌聖応、右馬助憲宗が連名で下総国大須賀保柴村の内の田、在家と奈土郷内下坊の別当耘を称名寺末、大宝院に寄附した
10. 20 高坂兵部大輔が称名寺の^{じゅうそん}什尊に釜利谷郷内の白山堂をもとのように管理させた

1374 (文中3・応安7年)

4. 15 瀬戸明神社の鐘(あるいは神主千葉胤義の寺である横松寺の鐘)がつくられた。鐘の銘は鎌倉宝戒寺2代の^{ふせん}普川(足利尊氏の第二子)の筆である
5. 六浦の上行寺をひらいた日祐上人(本山下総中山法華寺第3祖)が死んだ

1376 (天授2・永和2年)

6. 22 足利義満が称名寺の^{れいは}霊波に称名寺領の内外敷地、塩垂場などを寺領としてみとめた

1377 (天授3・永和3年)

8. 15 六浦大道の常福寺(真言律宗・称名寺末)をひらいた審覚が死んだ

1382 (弘和2・永徳2年)

4. 21 上杉安房守道合(入道憲方)が方崖和尚をまねいて六浦に能仁寺をたてた

1383 (弘和3・永徳3年)

9. 16 六浦引越の金龍院および能仁寺をひらいた方崖が死んだ

1399 (応永6年)

- * 赤井村御中井の真浄寺がつくられた

1402 (応永9年)

8. 23 足利満兼が称名寺領の上総国金田保内、高卵郷および同国佐貫郷をみとめた

1422 (応永29年)

7. 17 称名寺造営のため六浦大道の常福寺門前に関所をおいて、人は2文、馬は3文の税をとりたてた

1423 (応永30年)

- * 瀬戸明神社を修繕した

1438 (永享10年)

11. 4 関東管領の足利持氏が將軍足利義教に反抗して、いわゆる金沢合戦がおき、持氏はやぶれて翌5日に金沢称名寺にのがれた
11. 7 海老名尾張入道が足利持氏にしたがつて戦い、やぶれて六浦引越の道場で自殺した

1473 (文明5年)

9. 29 細川陸奥守の家老伊丹左京亮が宮ヶ谷に手子神社をたてた(伝)

1435 (文明17年)

- * 秋、歌僧堯惠が称名寺に来遊した

1499 (明応8年)

- * 淨願寺、光徳寺が合併して知足山龍華寺となつた(伝)

1507 (永正4年)

9. 20 龍華寺内の引攝院をひらいた義弁が死んだ
12. 18 宿村北谷の金蔵院をひらいた弘畔が死んだ

1512 (永正9年)

11. 26 坂本村会下の禅林寺の良庵(下総国関宿の東昌寺を開いた人)が死んだ

1521 (大永1年)

- * 町屋の伝心寺がたてられた。開いた人は養拙宗牧とい
う

1524 (大永4年)

8. 1 龍華寺の融弁が死んだ

1541 (天文10年)

5. 5 龍華寺の鐘がつくられた

1560 (永祿3年)

6. 7 小田原の北条氏康・氏政父子が金沢文庫の蔵書「文選」
(宋の時代に出版されたもの)を足利学校に寄附し
た

1564 (永祿7年)

2. 26 町屋村天然寺を開いた然普(品川願行寺第3世)が死
んだ

1566 (永祿9年)

3. 17 野島浦の善応寺をひらいた源朝が死んだ(伝)

1575 (天正3年)

8. 16 六浦の長生寺の頼乗が死んだ。長生寺はもと真言宗で
寿楽寺といい、頼乗のとき浄土真宗に改め寺号をかえ
たという

1578 (天正6年)

- * 六浦小名川の善照寺をひらいた日得が死んだ

1590 (天正18年)

4. 豊臣秀吉が称名寺・寺之前・海岸寺に乱暴狼籍、放火
などの禁制をだした
8. 徳川家康が江戸城に入り、金沢附近を代官原田佐左衛
門に支配させた
- * 青戸が間宮左衛門信繁の知行ちぎょうになつた(伝)

1591 (天正19年)

11. 六浦郷のうち 100 石を瀬戸明神社領に寄附した
* この年、寺前村のうち 100 石が称名寺領になつた

1594 (文祿3年)

- * 富岡村の豊島四郎兵衛信貞の子信満が旗本になつた
* このころ、代官原田佐左衛門が町屋村、宿村を検地した (伝)

1595 (文祿4年)

7. 24 六浦小名川の光伝寺を開いた得とくれんしやにんよくうこうれいでん蓮社忍誉空公靈伝が死んだ
* 富岡村が旗本の豊島刑部少輔信満の領地となつた

1602 (慶長7年)

- * 徳川家康が金沢文庫の蔵書「群書治要」「春秋経伝集解」などを江戸の富士見亭文庫へ持ちだした

1609 (慶長14年)

- * 龍華寺が武蔵・相模・伊豆3カ国の古義真言宗法談所34院の一に定められた

1610 (慶長15年)

- * 豊島刑部少輔信満が富岡の八幡社を修理した

1611 (慶長16年)

8. 4 富岡村の長昌庵をひらいた仙溪が死んだ

1624 (寛永元年)

- * 豊島刑部少輔信満が富岡村に慶弴寺をたてた

1627 (寛永4年)

- * 富岡村慶弴寺をひらいた伝榮法印が死んだ

1628 (寛永5年)

8. 富岡村が八木勘十郎宗直の領地となつた

1641 (寛永18年)

- * 町屋村伝心寺の鐘を、洲崎村の人、窪寺檢校（格翁宗越居士）が寄附した

1643（寛永20年）

12. 野島山に稲荷社をたてて野島の鎮守とした。このころ江戸の紅葉山東照宮の忠尊のねがいで、その祖先、伊丹右衛門大夫もとの領地の坂本村が紅葉山東照宮の神領となつた（伝）

- * このころ、富岡村慶珊寺の伝雅が板橋に芋明神をまつつた

1656（明暦2年）

11. 八木但馬守宗直・十三郎高豊の兩人が富岡村の八幡社に鐘を寄附した

1657（明暦3年）

4. 10 富岡村悟心庵をひらいた龍州が死んだ

1658（万治元年）

5. 18 六浦三艘の宝樹院の永叫が死んだ

1662（寛文2年）

2. 16 六浦瀬戸の円通寺を開いた嵩榮が死んだ

2. 谷津村・六浦寺分村・六浦平分村が久世大和守広之の領地となつた

1666（寛文6年）

2. 27 富岡村西源庵を開いた担月が死んだ

1667（寛文7年）

- * 八木氏が富岡村を檢地した

1668（寛文8年）

- * 永島祐伯（号は泥亀）が走川および平潟の2カ所に新田を開いて、塩田2町歩、田15石を得た。これが泥亀新田のおこりである

1675（延宝3年）

10. 15 峠村の峠坂を修理した浄誉向入が死んだ

1677 (延宝5年)

* 冬、加賀の金沢藩主前田綱紀(松雲)の家臣津田六郎兵衛光吉が古書をたずねて称名寺へきた

1679 (延宝7年)

8. 9 町屋村天然寺の鐘がつくられた

1680 (延宝8年)

10. 泥亀新田の名主与右衛門が代官坪井牛之助に走川新田の汐除堤長さ70間と平潟新田の汐除堤長さ336間の修理の予算書をだした

1681 (天和元年)

12. 称名寺金堂(現存)がたてられた

1687 (貞享4年)

10. 代官西山六郎兵衛が金沢領の仕置帳をだした。このころ、水戸の徳川家から称名寺へ珍書をさがしに来た

1689 (元祿2年)

* 柴村宝蔵院を伝宥がふたたびたてた(伝)

1695 (元祿8年)

* 峠村の熊野社を地頭加藤太郎左衛門がふたたびたてた

1696 (元祿9年)

* 称名寺領以外の寺前村と、瀬戸神社領以外の社家分村、六浦の寺分村・平分村・釜利谷の宿村・赤井村の6カ村が米倉丹後守昌尹まさたぎの領地となつた

* 米倉丹後守昌尹が六浦引越さかいに陣屋をつくつた

1698 (元祿11年)

5. 26 富岡村が代官の支配所となつた

1701 (元祿14年)

2 六浦小名川の光伝寺の鐘がつくられた

1703 (元禄16年)

- * 金沢八景の勝景を心越かんし禪師は漢詩で、京極兵部高門は和歌でほめた(伝)

1707 (宝永4年)

- * 幕府の元老酒井侯が牡丹ぼたんを泥亀新田の永島氏におくつた(伝)

1712 (正徳2年)

- 8. 江戸の俳人立志・玉全らが金沢にきた。翌々年またきてその紀行文「芋の子」を出版した

1716 (享保元年)

- * 仲秋、町屋村安立寺の鐘がつくられた

1717 (享保2年)

- * 荻生徂徠の門人太宰春台・安藤東野・山井崑崙が称名寺と文庫跡などをたずねた

1722 (享保7年)

- 7. 27 米倉丹後守忠仰ただすけ(はじめ保教という)が下野国皆川から金沢の陣屋にうつつた(12,000石をもつた)

1735 (享保20年)

- 4. 8 六浦藩主、米倉丹後守忠仰(30)が死んだ
- * 六浦三艘の宝樹院が大道にうつつた(伝)

1737 (元文2年)

- * 秋、俳人佐久間妻河が門人の鈴木鶯貫・白井西奴と3人で、大山、箱根、伊豆からのかえりに六浦・金沢の勝景をみてかえつた。「夏山伏」の紀行文がある

1741 (寛保元年)

- 12. 永島段右衛門が平瀧の海を埋立てるについて野島浦から支障がないという証文をいれた
- * 青戸が代官の支配所となつた
- * 龍源寺(龍華寺)がやけた

1742 (寛保2年)

4. 青木昆陽が古書をたずねて称名寺にきた

1760 (宝暦10年)

6. 14 江戸の小石川養生所の医師小川箎船(89)が死んだ。
墓は遺言によつて六浦瀬ヶ崎の太寧寺にたてられた

1762 (宝暦12年)

- * 町屋村伝心寺の鐘がつくられた

1771 (明和8年)

2. 代官久保田十左衛門が永島段右衛門に瀬戸の入江を埋立させるため、関係各村立会の上で境などをさだめた
* 雪中庵蓼太の「金沢行」が出版された

1778 (安永7年)

6. 能見堂に「武蔵国金沢碑文」がたてられた
* 富岡村のうち400石と青戸が稲葉遠江守、富岡村のうち50石が杉浦八郎五郎の領地になつた(伝)

1779 (安永8年)

10. 永島段右衛門が資金をえて瀬戸の入江埋立を幕府へ願ひでたので再度の調査により周囲の関係9カ村は連名して支障ないむね書状をだした

1783 (天明3年)

2. 金沢文庫の旧跡道標の碑が谷津にたてられた
(いまは称名寺の赤門前にうつさされている)

1784 (天明4年)

- * ^{きさん} 飢饉があつた。こののち、寺前村の山田某が貞享のころから谷津にあつた塩田を埋立て、大沢新田をつくつた(伝)

1785 (天明5年)

- * 永島段右衛門が勘定奉行の岸彦十郎のゆるして金沢入江新田の埋立をはじめた

1786 (天明6年)

- * 春ごろ、代官江川太郎左衛門が金沢入江新田を検地して泥亀新田村と名づけ、村にした
- 7. 関東大洪水があつた。このため金沢入江新田の新墾地がことごとくおしながされた

1788 (天明8年)

- 9. 泥亀新田の新開入用金を分担ひきうけた宿村の能右衛門、鎌倉郡上の村藤左衛門、岩瀬村源左衛門、上野庭村市左衛門の4人は出水後の自普請じふしんによる修復出金ができないので永島段右衛門に無償でゆずつた

1790 (寛政2年)

- 2. 称名寺の愛染堂がふたたびたてられた (伝)

1791 (寛政3年)

- 8. 9 大風雨のため江戸湾沿岸に高汐があつた。このため永島(6代)段右衛門成郷が埋立した泥亀新田の堤防はことごとく流失した

1794 (寛政6年)

- 2. 称名寺の池畔に金沢安貞、千秋父子が「金沢文庫古跡碑文」をたてた

1800 (寛政12年)

- 8. 瀬戸明神社の社殿がたてられた (伝)

1803 (享和3年)

- * 円通寺内の東照宮供料地のため釜利谷小泉に新田をひらいた (伝)

1805 (文化2年)

- * 称名寺の鐘楼をあらためてつくつた

1806 (文化3年)

- 5. 富岡村・小柴村・野島浦の名主、狐師代は、他村の名主狐師代と、六人網漁業の板狩をしないことを申合わせ証文をとりかわした
- 12. 赤井村、宿村が金沢入江新田修理普請取掛りまでの期

間一時通船の承諾をえた

1808 (文化5年)

5. 洲崎村・野島浦・町屋村・谷津村・寺前村が室ノ木・三艘の船持、保土ヶ谷宿の扱人と連名で金沢入江新田一時通船を願いでて承諾をえた
5. 洲崎村の船持の代表庄五郎、安右衛門が金沢入江新田再開普請取掛りまでの間、うなぎ取稼を願いでて承諾をえた。世話人は保土ヶ谷宿の年寄と名主後見人で税は1カ年船1艘につき100文、1月限り納めである
12. 三浦郡4カ村の内、鉾切の某が金沢入江新田内に無断で、船入渡世をしてみとがめられた

1809 (文化6年)

4. 町屋、洲崎の両村が協議の上、牛頭天王社を2社にわけけることをさだめた(伝)

1810 (文化7年)

- * 夏、長門藩の毛利親頼が家臣黒田頼久を、瀬ヶ崎太寧寺に派遣して、源範頼の神位と画像の装飾をなおさせた
- * 幕府が「新編武蔵風土記」のうち、久良岐郡くらきせんの編集をはじめた

1811 (文化8年)

- * 峠村が会津藩松平肥後守容衆の領地となつた

1812 (文化9年)

4. 能見堂のそばに俳人二世美山が「百八の鐘の別れやほととぎす」という江耆楼美山こうきろうびざんの句碑をたてた。碑はのちに泥亀の牡丹園にうつされた

1816 (文化13年)

6. 富岡村・小柴村・野島浦の名主は神奈川浦でひらかれた武蔵、相模、上総3国の内海浦方の会議に出て、新規漁業の禁止、海難の相互救助などを申合わせた
12. 16 富岡村・小柴村・野島浦の狐師頭は、他の狐師頭と連名して江戸内湾漁獵大目38職の覚書をだした

1817 (文化14年)

1. 洲崎村旧福寿院境内に入坂神社をたてた (伝)

1818 (文政元年)

9. 江戸茅場町かやほちようの豪商石橋係兵衛が称名寺仁王門 (現存) を寄附した

1819 (文政2年)

9. 石橋係兵衛が称名寺あかさごういしだん菘堂石壇を寄附した
* 峠村が河越藩松平大和守矩典の領地となつた

1822 (文政5年)

10. 金沢の総宜楼に佐羽淡齋の詩碑がたてられた

1826 (文政9年)

9. 野島浦の吉兵衛が幕府御用の活鯛2,000枚余の調達にたいし上総・相模・武蔵3カ国43カ浦総代の1人としてえられた

1833 (天保4年)

7. 21 金沢の俳人長谷川義翁 (64) が死んだ

1834 (天保5年)

10. 守郷抱儀もりむらほうぎの「金沢紀遊」かなざはきゆうが出版された

1839 (天保10年)

4. 鎌倉郡玉縄村の福原高峯が画工長谷川雪堤の模写をそえて「相中留恩記略」そうちゆうりゆうおんきりやくを完成した。巻23に金沢がのつている

1840 (天保11年)

9. 寺前村の薬王寺の鐘がつくられた

1843 (天保14年)

3. 町屋村ほか12カ村が金沢領継場の組合増の助郷歎願を相談した
8. 代官関保右衛門から御料所改革についての廻状まいじようがだ

された

11. 18 柴村に火事があり、村の半分と宝蔵院が焼けた
* 泥亀新田村が河越藩松平大和守の領地となり寛政3年
以来汐入荒地になつていた金沢入江新田の起返しおこしりえを
永島段右衛門に命じた
* 柴村が河越藩松平大和守の預り所となつた

1844 (天保15・弘化元年)

11. 金沢入江新田の荒所起返しのため永島段右衛門が関係
各村に支障の有無をたしかめた

1845 (弘化2年)

3. 金沢入江新田の埋立について坂本村がさしさわりがあ
るといふので永島段右衛門は奉行所へ訴願した
10. 17 金沢入江新田の訴訟について奉行所が双方を呼んでし
らべた
11. 23 永島段右衛門が金沢入江新田の訴訟についてはやく解
決するよう奉行所へ願ひでた

1847 (弘化4年)

2. 永島段右衛門が金沢入江新田起返しのため瀬戸明神社
境内姫子島裏手を借りた

1849 (嘉永2年)

- * 永島(9代)段右衛門忠篤(号は亀巢)が泥亀新田を
完成した

1851 (嘉永4年)

3. 金龍院に江戸の田村資愛が「昇天山九驚亭之記」の碑
文をたてた
10. 2 高汐で入江新田汐除堤および平潟汐除新堤がやぶれた
* 永島段右衛門忠篤が平潟の塩田をひろげた。忠篤はそ
ののち、50カ村の大取締となり100石をもらつた

1852 (嘉永5年)

3. 重宣の版画「武洲金沢ふですてやま擲筆山地蔵院能見堂八景之
画」が出版された

1853 (嘉永6年)

6. 4 幕府は長門、肥後、越前、彦根の諸藩に命じ兵をだして江戸湾沿岸の要地を警備させた
6. 4 アメリカ艦隊が本牧沖に碇泊し近海を測量した
7. 23 幕府は江戸湾内に砲台をたてた

1854 (嘉永7・安政元年)

1. 16 アメリカ使節ペリーが軍艦7隻をひきいてふたたび浦賀沖にあらわれ、金沢小柴沖に碇泊した
1. 21 アメリカ軍艦1隻が杉田から本牧にきて附近の測量をはじめた
- * 柴村が肥後藩細川越中守の預り所となつた

1855 (安政2年)

12. 野島浦が不漁で困窮した。このため年貢にさしつかえ漁船50艘諸道具付を質物として金40両をかり入れた

1857 (安政4年)

- * 野島浦が洲崎村から分れて年貢割付皆済目録を下附されるよう久良岐郡大組合総代永島段右衛門に訴えた

1858 (安政5年)

4. 11 六浦瀬戸に大火があつた。旅館千代本から出火して東屋・天然寺・薬王寺がやけた
6. 17 アメリカ総領事ハリスが神奈川沖に来航した

1859 (安政6年)

6. 2 横浜が開港になつた
- * このころ、村民北川某が六浦に塩田をつくつた(伝)

1860 (安政7・万延元年)

1. 18 金沢野島浦の半次郎(55)鉄五郎(22)が第1回遣米使節新見豊前守正興(40)一行にしたがつて米国軍艦ポーハタンに乗りこんだ。世界一周後9月13日横浜帰着。ただし半次郎は途中サンフランシスコで病気となりひきかえして函館で死んだ
3. 熊本藩細川越中守預り所の町屋村・小坪村・下平作村

3 カ村の継場助郷の村々が困つてきたので、野島浦名主久保寺金右衛門らが代表して、永島段右衛門に歎願して、久良岐郡御役所の非常備金のなかから 150 両を山 8 反歩、米 78 石の抵当で借りた

- * 秋、2 度風災におそわれた。そのため田畑が不作で諸物価も次第にたかくなつた

1861 (万延 2・文久元年)

- * 村民小上馬某が六浦瀬ヶ崎に新田をつくつた (小上馬新田)

1863 (文久 3 年)

- * 永島段右衛門忠篤が龍華寺を再興した。のも鐘楼をたてた

- * 柴村が佐倉藩堀田相模守の預り所となつた

1865 (元治 2・慶応元年)

9. 外人の遊歩道が完成しその沿道に外人専門の休憩所が設けられた。金沢にも邦人名義で外人経営のミルクホールがあつたというのもこのころである

1867 (慶応 3 年)

- * 柴村を代官江川太郎左衛門が支配した

- * 六浦藩米倉氏の家老川上博好が「おさがり」という迷信により領民が連日歌舞する弊風をあらためさせた

1868 (慶応 4・明治元年)

3. 13 六浦藩主米倉昌言が横浜の取締を命ぜられた

1869 (明治 2 年)

8. 県から「郷学校規則」が町村にくばられた

1871 (明治 4 年)

11. 14 廃藩置県の公布により六浦藩が六浦県となつた

12. 21 横浜・横須賀・浦賀・三崎・金沢間の郵便がはじめられた

1872 (明治5年)

6. 富岡村持明院に郷学校(富岡小学校のはじめ)がひらかれた

1873 (明治6年)

5. 23 三分学舎(六浦小学校のはじめ)ができた
5. 26 知足学舎が洲崎村知足山龍華寺内の華藏院(男生徒)引攝院(女生徒)にできた。教師は前田国松、篠原武で、助手が今井仙蔵、生徒は200名であつた
5. 26 赤井学舎(釜利谷小学校のはじめ)が釜利谷満藏院にできた
12. 瀬戸明神社が郷社瀬戸神社となり、町屋の牛頭天王社および寺前の入幡社が村社となつた。このころ、洲崎村の第六天社を洲崎神社とあらためて誉田別命をまつた
- * 称名寺が紀州高野山金剛峯寺の末派となつた。のち1,902年ころまた西大寺末にもどつた

1875 (明治8年)

- * 柴村の小柴学舎をやめて知足学舎に合併した

1876 (明治9年)

11. 20 寺前村に知足学舎の校舎を新築して、金沢学校とあらためた

1877 (明治10年)

9. コレラ病が流行したため、富岡に伝染病院がつくられた

1878 (明治11年)

5. 三分学校の新築校舎ができた

1879 (明治12年)

2. 各小区会所をやめて、各村に各戸長役場をおいた
3. 22 今の富岡町2,095に富岡学校の校舎を新築した

1883 (明治16年)

- * 金沢湾に海苔のり養殖場しよくじょうができた
- * 称名寺の瑜祇塔 (愛染堂) がやけた

1884 (明治17年)

- * 重野安繹しげのやすつぐが「永島亀巢翁功德碑」の碑文を書いた

1885 (明治18年)

12. はじめて村会が設けられた

1886 (明治19年)

- 4. 26 富岡村金波楼 (富岡村 1,893) が株券を発行した
- * 横浜市内にコレラ病が流行し、金沢でも患者40人余のうち20数名の病死者を野島附近共同墓地にうめた

1887 (明治20年)

- 6. 伊藤博文が金沢に来て夏島に別邸をつくつた
- 7. 佐藤忠蔵が「金沢名勝題詠集」を出版した

1888 (明治21年)

- 6. 6 憲法制定のための会談が東屋旅館で行われ、7月31日におわつた。この会談はのち夏島の伊藤博文別荘にうつされた
- 9. 26 今の洲崎町98に武蔵金沢郵便局 (普通郵便の集配局) がひらかれた

1889 (明治22年)

- 4. 1 町村分合改称令により富岡・柴・谷津・泥亀新田・寺前・町屋・洲崎・野島の8カ村は合併して金沢村となり、三分村と釜利谷村が合併して六浦莊村となつた。また峠村は東鎌倉村に合併された
- 4. 1 金沢郵便局が郵便為替および郵便貯金業務をはじめた

1890 (明治23年)

- * このころ、内務省勸農局が金沢湾に牡蠣かきの養殖をこころみた

1891 (明治24年)

1. 永島段右衛門忠篤（号亀巢、84才）が死んだ

1892（明治25年）

3. 野島学校が金沢学校に合併した
5. 23 東・西鎌倉村が連合した。峠はその一部である

1894（明治27年）

5. 1 金沢小学校が町屋の伝心寺を借り高等科教室にあてた
11. 横須賀軍港拡張のため長浦の消毒所を移して長浜検疫所ができた

1895（明治28年）

8. 19 金沢小学校の増築校舎ができて高等科生を本校に收容した

1896（明治29年）

4. 伏島近蔵が発起人となつて金沢文庫の再興を計画した

1897（明治30年）

4. 17 伊藤博文が平沼専蔵の出資をえて金沢文庫を復興し石倉一棟と書見所一棟をたて「棟式をあげた
5. 11 鎌倉町の一部であつた峠（今の朝比奈町）が六浦荘村に編入された
10. 伊藤博文が岡谷繁実^に依頼して各国法律書 330 冊を金沢文庫に寄附した

1900（明治33年）

4. 28 三分小学校に高等科がもうけられた。このため金沢小学校に通学中の高等科児童（男37名、女20名）が転入学した

5. 六浦荘村三分と逗子町間の県道路を改修してトンネル64間をつくつた

* 明治32～33年ころ、町屋の柴田虎吉が静岡県浜名湖附近から蓮^{はす}の種子を持ち帰り、泥亀新田に蓮根をうえたおなじころ、洲崎の山口藤五郎がトマト・パセリ・アスパラガス・サラダなど西洋蔬菜の栽培をはじめた。タマネギはこのころから栽培者が急にました

1903 (明治36年)

- * 洲崎 (3月23日) 野島 (3月23日)、柴 (5月21日)、富岡 (6月12日)、三分 (8月6日) の各漁業組合ができた
- * このころ東京湾内の鱈漁をめくつて小暁網と六人網の漁師の間に衝突事件がおきた

1904 (明治37年)

- 2. 9 洲崎神社が八頭羅町街道中から龍華寺わき (現在の位置) に移つた

1907 (明治40年)

- 8. 23 金沢村泥亀新田・屏風ヶ浦村間の道路改修のため富岡にトンネル2カ所を掘つた

1908 (明治41年)

- 4. 金沢小学校では児童がふえたため二部授業をおこなつた
- * 寺前の八幡社に神明社・鷲神社・王子社の3社をあわせてまつた

1909 (明治42年)

- 6. 30 瀬戸神社に室ノ木の熊野社・瀬ヶ崎の稻荷社・高谷の白山社・三艘の浅間社・川の諏訪社および日光社、大道の山王社・六浦の太神宮の8社をうつしてまつた
- * 金沢小学校が洲崎の一民屋をかりて分教場とした
- * 農商務省水産講習所が金沢村に牡蠣養殖場を設けフランス式の養殖試験をおこなつた

1910 (明治43年)

- 4. 7 製塩地整理の法律が公布された。このため金沢・六浦の塩田が廃止された

1911 (明治44年)

- 2. 11 金沢郵便局が電信業務をはじめた
- 4. 金沢小学校の新築校舎ができた
- 8. 28 近藤守重の「金沢文庫考」が出版された
- 9. 16 金沢郵便局が電話通信事務をはじめた

10. 1 三分・釜利谷間にトンネル（62間）ができた

1913（大正2年）

3. 11 富岡八幡社（八幡太神社）が村社となつた
5. 20 手子神社が村社となつた
7. 8 町屋の牛頭天王社（町屋神社）と野島の稲荷社（稲荷神社）が村社となつた
11. 23 県告示で屏風ヶ浦から富岡に入る道路が国道となり、六浦の侍従橋から鎌倉町に入る道路が朝比奈県道、侍従橋東から逗子町に通ずる道路が逗子金沢県道となつた
12. 24 瀬戸橋附近にあつた引攝院持ちの地藏堂（金島山地福寺）を龍華寺境内にうつした
* 5月ごろ、柴のトンネルができた
* 金沢村で柴へ通ずる道路の改修をおこなつた

1914（大正3年）

3. 5 泥亀新田の蓮根栽培創始者柴田虎吉（85）が死んだ
3. 18 六浦荘村信用組合ができた
8. 5 平田恒吉の「金沢と六浦荘時代」が発行された

1915（大正4年）

- * 北条実時に正五位がおくられた

1916（大正5年）

6. 六浦の侍従橋ができた
10. 1 金沢郵便局が簡易保険業務をはじめた

1917（大正6年）

9. 渡辺喜一外20名の発起で湘南電気鉄道株式会社ができた（黄金町・浦賀間）

1920（大正9年）

10. 1 第1回国勢調査がおこなわれた。金沢村5,232人、六浦荘村4,219人であつた
* 日本画家川合玉堂の別荘がこの年から昭和7年ごろまで富岡（旧富岡駅附近）にあつた
* 日本画家鏑木清方の別荘がこの年から昭和14年まで君

ヶ崎にあつた

1921 (大正10年)

8. 6 金沢郵便局が電話交換業務をはじめた
8. 18 相武自動車株式会社が横浜の入幡橋から金沢經由逗子間30分毎に乗合自動車の運行をはじめた

1922 (大正11年)

1. 12 称名寺内界が内務省から史跡の指定をうけた
6. 14 金沢村耕地整理組合が洲崎附近の旧塩田を埋立て集約的蔬菜栽培畑をひらく目的で設立をみとめられた

1923 (大正12年)

3. 海老沼製綿場(現在地番の町屋町27)がはじめられた
4. 6 金沢村信用組合ができた
9. 1 関東大震災がおきた。金沢村洲崎は震動を強く感じ全戸数173戸がほとんどたおれた。また国道筋は亀裂を生じ地盤が約1米低下した
9. 25 金沢小学校校舎がたおれたため屋外授業をはじめた。場所は称名寺境内、宝蔵院境内、泥亀の永島邸内と高等科生は町屋神社境内であつた

1924 (大正13年)

1. 金沢小学校がわずか8教室のブラック校舎で授業をはじめた
8. 20 金沢郵便局が洲崎町98(現在地番)にうつつた

1925 (大正14年)

10. 1 国勢調査がおこなわれた。金沢村5,410人、六浦荘村4,326人であつた
11. 20 金沢小学校の校舎を町屋原に新築して落成式をあげた(現在地)

1926 (大正15・昭和元年)

1. 1 金沢村が金沢町となつた
2. 三分・釜利谷両小学校が合併して六浦荘尋常高等小学校となつた
3. 9 六浦荘尋常高等小学校が釜利谷に分教場を設けた

8. 六浦荘尋常高等小学校の校舎が六浦3,543（現在地）にできた
10. 六浦の内川橋、六浦橋が完成した
11. 27 夏島憲法起草遺跡記念碑除幕式が夏島で挙行された
- * 関東大震災で倒れた称名寺の鐘楼が再建された

1927（昭和2年）

4. 1 屏風ヶ浦村、大岡川村と日下村が横浜市に編入されたので、久良岐郡は金沢町と六浦荘村だけとなった（現在の金沢区とおなじ）
5. 富岡・杉田境海岸のクツモ橋が完成した
9. 30 金沢町耕地整理組合がサンドポンプを使用し平潟湾の土砂で19町歩余の埋立工事を完了した

1928（昭和3年）

10. 谷津二の橋が完成した
- * 神奈川県では昭和御大典記念事業のひとつとして大橋新太郎の寄附金（50,000円）をあわせ100,000円で金沢文庫と昭和塾をたてることにきめた

1929（昭和4年）

2. 5 金沢文庫と昭和塾の地鎮祭がおこなわれた
5. 湘南電気鉄道株式会社金沢車両修繕工場（現在地番の谷津町400の2）ができた

1930（昭和5年）

4. 1 黄金町・浦賀間と金沢八景、湘南逗子間に湘南電気鉄道が開通した。同時に今の金沢区内に設けられた駅は湘南富岡・金沢文庫・金沢八景の3駅であつた
7. 10 関靖が金沢文庫長になつた
7. 「武州金沢六浦案内」が出版された
8. 8 金沢文庫（県立図書館）が開館式をあげた
8. 22 金沢文庫が公開された
10. 1 国勢調査がおこなわれた。金沢町 6,026人 六浦荘村 4,607人であつた

1931（昭和6年）

3. 金子隆英「金沢順礼」が出版された

- 6. 金沢の乙鱸橋が完成した
- 7. 1 湘南電気鉄道株式会社が乙鱸海岸に海水浴場をひらいた
- 12. 26 京浜電鉄横浜市内乗入線（横浜駅・日ノ出町間）が開通、湘南電鉄との連絡が完成したので乗合自動車連絡は廃止された

1932（昭和7年）

- 6. 山下鉄工所（六浦町4,032）がはじめられた
- * 寺前字称名寺・金沢文庫駅間の新設道路が完成した

1933（昭和8年）

- 1. 洲崎の荒戸橋が完成した
- 4. 1 京浜電鉄の省線品川駅乗入れと同時に品川・浦賀間の直通運転がはじめられた
- 11. 六浦の三艘橋が完成した
- * このころ、横須賀自動車会社が杉田・横須賀間と浦賀・逗子・葉山間に乗合自動車を運行している

1934（昭和9年）

- 10. 11 今の富岡町3,175に日本飛行機株式会社ができた
- 11. 10 横浜海軍航空隊が富岡にできた
- 11. 株式会社葛谷商店金沢工場（現在地番の寺前町4）がはじめられた
- 11. 相川製材所（六浦町1,656）がはじめられた

1935（昭和10年）

- 1. 谷津一ノ橋（踏切側）が完成した
- 5. 三昌電気製油研究所（現在地番の谷津町16）がはじめられた
- 6. 永瀬鑄造所（現在地番の谷津町352）がはじめられた
- 6. 杉田・横浜駅間を営業路線とする横浜乗合自動車と横須賀自動車が合併、湘南乗合自動車株式会社と改めた
- 7. 19 金沢の西洋蔬菜栽培開拓者山口藤五郎（68）が死んだ
- 9. 5 「金沢文庫本図録」上巻が出版された
- 10. 1 国勢調査が施行された。金沢町8,268人、六浦荘村5,740人
- 10. 23 称名寺で北条実時660年忌大法会がひらかれた。また

その記念事業として大橋新太郎が金沢山から稲荷山、日向山にかけて百番観世音の石仏を奉配し、また金沢山上に八角堂をたて長浜観音をまつた

11. 金沢町昭和塾前の亀井橋が完成した
12. 26 関靖の「北条実時と金沢文庫」が出版された

1936 (昭和11年)

2. 1 湘南乗合自動車会社が湘南電鉄会社に合併され、同社自動車部となつた
3. 横須賀海軍航空隊拡張計画により野島地先と飛行場南側水路が埋立てられた
5. 5 「金沢文庫本図録」下巻が出版された
5. 釜利谷の待橋が完成した
6. 15 株式会社日本製鋼所横浜製作所ができた(現在地番の泥亀町40)
6. 30 金沢町と六浦荘村の横浜市上水道給水区域編入が認可された
6. 南洋舎が六浦町4,033にドライクリーニング工場を新設した
8. 六浦の諏訪の橋が完成した
9. 20 飯田九一編「杉田金沢古今俳句集」が出版された
10. 1 金沢町と六浦荘村が横浜市磯子区に編入された
10. 横浜市上水道の金沢への給水がはじめられた。当時給水戸数は約800戸であつた
11. 1 南消防署金沢出張所ができた

1937 (昭和12年)

4. 1 横浜富岡郵便局が今の富岡町2,352にできた
5. 10 六浦保育園(園長六浦正隆)ができた
8. 1 関靖の「称名寺開山審海和尚」が出版された
8. 富岡製材工場(富岡町2,343)がはじめられた
9. 15 「金沢文庫古文書」第1輯が出版された
9. 杉浦製材所(現在地番の町屋町55)がはじめられた
10. 5 関靖の「北条泰時・北条実時」が出版された

1938 (昭和13年)

3. 5 市議員選挙が施行され、小沢二郎が当選した
5. 合資会社桐ヶ谷工作所横浜工場(現在地番の谷津町23)

がはじめられた

7. 1 大日本兵器株式会社が設けられ、堀口88に富岡兵器製作所、同じく堀口120に湘南工機工場が設けられた
8. 30 関靖の「かねさは物語」が出版された
11. 三陽製作所（富岡町2, 241）がはじめられた
11. 関東瓦斯株式会社が六浦町4, 830の1に横浜工場をつくつた

1939（昭和14年）

2. 湘南軽合金鋳造所（谷津町154）がはじめられた
4. 10 金沢工業株式会社が谷津町12にできた
4. 12 追浜海軍共済組合病院が六浦町506にできた
7. 1 金沢地区の町界・字界の変更、町名・字名の改称および地番の更正があつた
10. 東京石川島造船所発動機部が東京佃島から富岡町昭和町3, 174に移り、航空機部と改めた
12. 湘南電気鉄道株式会社自動車部六浦燃料配給所（六浦町4, 831）がはじめられた
- * 柴・長浜間の新トンネルが完成した（昭和12年3月着工）
- * 神奈川県編「金沢文庫及昭和誌概要」が出版された

1940（昭和15年）

6. 「金沢文庫と郷土」（金沢文庫編）が発行された
8. 称名寺の古文書「手紙」から兼好法師の真筆が発見された

1941（昭和16年）

1. 27 金沢工業株式会社が日本航空器機株式会社と改めた
2. 1 横浜金沢文庫郵便局が寺前町16にできた
4. 1 海軍航空技術廠支廠が、六浦町・釜利谷町・大川にまたがつて設けられた
8. 石川島航空工業株式会社（資本金25,000,000円）が株式会社東京石川島造船所から分れてできた
11. 21 「南隴文庫目録」が金沢文庫から出版された
- * 釜利谷町入口踏切傍の白井橋が完成した

1942 (昭和17年)

2. 1 関靖の「国難と北条時宗」が出版された
3. 6 横浜六浦郵便局が六浦町 681 にできた
4. 1 野島・三分・洲崎の 3 漁業組合が漁業法の改正で合併し、金沢漁業会となった
6. 10 市会議員選挙が施行され、鹿島源左衛門・小沢二郎が当選した
6. 10 横浜興信銀行金沢支店が町屋町20にできた

1943 (昭和18年)

3. 10 「金沢文庫古文書」第 2 輯が出版された
12. 25 南消防署金沢出張所が磯子消防署金沢出張所となった
- * 金沢信用組合が横浜信用組合に合併された

1944 (昭和19年)

2. 23 富岡国民学校が焼けた
4. 1 釜利谷町 877 に釜利谷国民学校、六浦町 2, 455 に大道国民学校が、六浦国民学校から分れてできた
5. 10 東京急行電鉄の谷津坂駅が設けられた
11. 野島・室ノ木間に入紘橋ができて渡船が廃止された
- * 相武隧道が完成し、金沢・大船間の新道が開通した
(昭和17年起工)

1945 (昭和20年)

2. 石川島航空工業株式会社が中越航空工業株式会社を合併し、資本金 25,500,000 円となった
2. 関東瓦斯株式会社が東京瓦斯株式会社に合併、横浜工場を東京瓦斯株式会社六浦工場と改めた
4. 18 関靖「武家の興学」(北条実時一門と金沢文庫)が出版された
6. 10 空襲により富岡南部に爆弾が投下された。家屋の被害は全壊59戸、全焼12戸であつた
9. 19 富岡国民学校が富岡町1, 431 (現在地) にうつつた
10. 22 追浜海軍共済組合病院が財団法人共済協会追浜共済病院と改めた
10. 石川島航空工業株式会社が石川島産業株式会社と改めた

10. 日本航空器機株式会社が松本産業株式会社と社名を改め民需産業にかわつた
12. 大日本兵器株式会社が社名を日平産業株式会社に改め富岡兵器製作所と湘南工機工場を統合して横浜工場とし、民需産業にかわつた

1946（昭和21年）

1. 日本飛行機株式会社が日飛産業株式会社と社名を改め民需生産にかわつた
1. 関東学院中学部と工業専門学校が南区三春台から六浦町に移つた
2. 1 財団法人剣心学園横浜中学校が富岡町 510 に移つた
4. 1 関東学院商業学校（南区三春台の関東学院工業学校が 21. 3. 30 改称）と関東学院追浜工業学校（元海軍航空技術廠工員養成所内の追浜工業学校が 21. 3. 30 設立変更により改称）が六浦町 4, 834 に移つた
4. 関東学院が高等商業部を復興して、六浦町に経済専門学校を設けた
5. 15 恩賜財団済生会神奈川県病院が平潟町 140 の元海軍工員寮内にできた
6. 1 磯子郵便局金沢分室が洲崎町 98 にできて郵便集配業務（集配範囲は富岡町を除く金沢区の全地域）と金沢郵便局から引継の電信業務をはじめた。また金沢郵便局は洲崎町 23 に移つた
6. 25 東京急行電鉄株式会社が釜利谷町 1 に旧第一海軍技術廠の一部を使つて横浜製作所をひらいた
10. 1 東京急行電鉄の湘南富岡駅が富岡町 2, 669（以前のガード上と別場所）にできた
10. 18 逗子ドレスメーカー女学院金沢八景分校（学院長小笠原のぶを）が六浦町瀬戸の佐野善階上を教室としてひらいた（当時の入学者 27 名、教師 1 名）

1947（昭和22年）

3. 泥亀町北端から釜利谷町赤坂御仲井間の道路拡張工事が完成した
4. 30 市会議員選挙が施行され、森益太郎・鹿島源左衛門・三村健彰・小沢二郎が当選した
5. 1 学制改革により国民学校を小学校と改めた

- 5. 1 六浦小学校が学制改革により休校し、大道小学校に収容された
- 5. 5 横浜市立六浦中学校が休校中の六浦小学校々舎を、横浜市立富岡中学校が富岡小学校の一隅にあつた工員寮食堂をそれぞれ仮校舎として開校した
- 5. 24 小沢二郎が横浜市会議長に就任した（昭和26年4月29日まで）
- 5. 松本産業株式会社が松本金属工業株式会社と改めた
- 6. 1 富岡、金沢、六浦、釜利谷の4地区事務所が開かれた
- 6. 1 横浜中学校が本牧中学校生徒475名を収容した
- 6. 16 六浦町3,519に横浜六浦川郵便局ができた
- 6. 逗子ドレスメーカー女学院金沢分校が日本製鋼所女子従業員のため特別夜間部（授業1カ年）のクラスを編成した
- 7. 6 逗子ドレスメーカー女学院金沢八景分校が六浦町4,522の現在校舎に移つた
- 9. 1 横浜中央電話局長者町分局金沢分室が谷津町346に開かれ、電話交換業務をはじめた
- 9. 横浜市立富岡学園が富岡町2,095に新設され、小田原市玉宝寺の横浜市聾災学童合宿教育所収容児童を移しさらに引揚児童、生活困難児童等を収容した
- 10. 1 臨時国勢調査が施行され、磯子区役所金沢出張所管内の人口は48,936人、11,128世帯であつた
- 10. 20 横浜市立六浦中学校が六浦町4,66の現在地校舎に移つた
- 11. 5 休校中の六浦小学校が復校した
- 11. 15 横浜市立富岡中学校が六浦町の旧海軍航空技術支廠の建物を改造して移り、横浜市立金沢中学校と改めた

1948（昭和23年）

- 1. 釜利谷町赤坂四辻の大橋が完成した
- 1. 川端康成の「再婚者の手記」が「新潮」に連載された（金沢八景記載）
- 2. 日平産業横浜工場で争議がおきた
- 3. 15 日飛産業株式会社が自動車修理役務業者となつた
- 3. 20 六浦町の関東学院商業学校と関東学院追浜工業学校が合併して関東学院商工高等学校（夜間）となつた
- 3. 20 財団法人剣心学園横浜高等学校が設立を認可された

4. 関東学院中学部が関東学院高等学校、関東学院中学校に分れた
5. 15 「金沢文庫と金沢八景」（金沢文庫編）が出版された
5. 15 金沢区が磯子区から分れて独立した（初代区長渡辺義雄）
6. 1 京浜急行電鉄株式会社が東京急行電鉄株式会社から分れて独立した
6. 6 横浜映画会社が「金沢八景」を撮影した
7. 2 相川味噌醤油醸造株式会社が六浦町3,865に設けられた。これより以前は個人経営で1864年（元治元）創業味噌醤油の統制時には金沢区荷扱所であつた
7. 4 乙鱸海岸に市営海水浴場ができた
7. 18 柴漁港の防波堤が完成した
8. 1 常住人口調査が行われ、金沢区の人口は51,765人、11,694世帯であつた
8. 1 磯子消防署金沢出張所が金沢消防司令補派出所となつた
8. 23 株式会社東急横浜製作所が東京急行電鉄株式会社から分れて設けられた
9. 15 アイオン台風に襲われ、柴漁港の防波堤が一夜でこわされた
10. 11 金沢中学校が新築校舎（釜利谷町443）に移つた
10. 12 金沢区政協議会が結成された
10. 14 日米化学株式会社が原沢製薬工業株式会社をそのまま受けついでできた
10. 23 磯子警察署金沢警部補派出所が金沢警部派出所に昇格した。庁舎は横浜市水道局金沢出張所（寺前町33）と交換して改築転用した。木造二階建56.5坪である
12. 12 金沢区第1回農業産物品評会（会場金沢小学校）がひらかれた
- * 横浜高等学校新聞部が隔月発行の学校新聞「桃源」を発行した

1949（昭和24年）

2. 1 横浜市営バスの運行が、横浜・六浦間に開始された
同じころ京浜急行電鉄急行バスが横浜駅・三崎間に運行されはじめた
2. 4 区内各小学校の児童作品展（会場区役所二階・会期 6

日間)がひらかれた

3. 1 京浜急行電鉄の六浦駅が六浦町 1,533 に設けられた
3. 13 薬王寺本堂が再建され、入仏式が行われた
4. 1 横浜市立大学商学部が六浦町 4,646 に設けられた
(6.1 授業開始)
4. 1 六浦町の財団法人関東学院に関東学院小学校が設けられた(校長坂田祐)
4. 1 横浜市清掃局金沢清掃出張所が金沢区役所の一角に開設し(8.17庁舎新設)、清掃事業が市直営になった
4. 10 高保興業合資会社が六浦町 4,033 にできた
4. 関東学院大学経済学部、同工学部が開校した
4. 平潟町、済生会神奈川県病院が済生会若草病院と改めた
5. 2 日飛モーターズ株式会社(日飛産業第2会社)が設けられた
5. 乙鱸の運河に野島橋ができて渡船が廃止された
6. 1 横浜中央電話局金沢分室が横浜長者町電話局金沢分室となつた。また磯子電報局金沢分室が開かれた
6. 15 東急横浜製作所で争議がおきた
7. 石川島織機製造株式会社(資本金 27,000,000 円)が石川島産業の第2会社としてできた
7. 関東学院中高キリスト教青年会で「ロゴス」を創刊した
8. 1 横浜市立金沢さくら保育園が泥亀町 5 に開かれた
8. 31 キティ台風に襲われ、区内の所々に浸水家屋があり寺前の八幡神社前大銀杏も倒れた
8. 東京ガス株式会社六浦工場がガス製造を停止し六浦整圧所となつた
9. 21 富岡漁業協同組合が設けられた
10. 14 柴漁業協同組合が設けられた
10. 31 金沢漁業協同組合が設けられた
11. 25 南簡易裁判所(管轄は南・磯子・金沢の3区)の開所式が挙行された
11. 六浦町三艘の汐汲橋が完成した
12. 15 神奈川県が石川島産業株式会社の一部を買収して富岡町に布帛指導所および工業試験場を復活し神奈川県工業試験所を設けた

- 12. 26 旧横須賀海軍航空隊飛行場の帰属に関連して、横浜・横須賀両市境界線問題の折衝が行われた
- 12. 釜利谷町の柿の木橋が完成した
- 12. 安部和枝（平潟町住）の「小さき十字架を背負いて」が「週間朝日」に掲載された

1950（昭和25年）

- 2. 5 ルンビニー童園（園長小沢省元）が釜利谷町444に開園した
- 2. 10 横浜信用組が六浦信用組合を合併した
- 3. 釜利谷町の北谷一の橋が完成した
- 4. 6 日平産業で貸銀遅払反対の24時間ストがおきた
- 4. 10 横浜市立商業高等学校金沢分校が金沢中学校内に設けられた。修業期間が1カ年の夜間授業で、商業科、被服科に分けられる
- 4. 10 関口泰（元朝日新聞論説委員）が横浜市立大学学長に就任した
- 4. 28 京浜急行電鉄逗子線に沿う三艘・南川間の通称千間通りが開通した
- 4. 釜利谷町の明神橋・北谷二の橋が完成した
- 4. 六浦町の国道沿いに染井吉野桜を植樹した
- 5. 28 京浜急行で24時間ストがおきた
- 5. 横浜南法人会金沢支部（支部長相川藤兵衛）が設けられた
- 6. 17 金沢文化洋裁学院（町屋町136 学院長塩田ヨシ子）が設立認可された
- 6. 30 横浜市金沢保健所が金沢町48にできた
- 6. 1 自家用自動車組合金沢支部・金沢工業会・横浜南法人会金沢支部の3団体により金沢区商工連合会（会長高橋保）が設けられた
- 8. 1 横浜市金沢民生安定所が金沢区役所内にできた
- 9. 10 天使幼稚園（園長ロコナイ神父）が金沢町51にできた
- 9. 関東学院中高新聞部が「六浦時報」を創刊した
- 10. 1 国勢調査が行われた。金沢区の人口は56,040人（12,785世帯）であつた
- 11. 19 金沢八景と能見堂が神奈川県新八景に入選した
- 12. 28 富岡学園が焼けた
- 12. 30 金沢シネマができた

1951 (昭和26年)

1. 15 史跡称名寺保存会ができた
2. 11 明治憲法草案起草遺跡記念碑除幕式が夏島で行われた
3. 15 金沢観光協会が区役所内にできた
3. 16 洲崎町海岸の平潟橋が完成した
4. 1 横浜市立金沢高等学校が六浦中学校校舎の一部を借りて開校した
4. 1 横浜高等学校に商業科が併設された
4. 1 関東学院商工高等学校に普通科の課程を設けた
4. 20 横浜市営バスが六浦橋・白山道間の運行をはじめた
4. 23 市会議員選挙が施行され、森下一男・鹿島源左衛門・小沢二郎・宇野忠夫が当選した
4. 29 清水藤太郎(元県薬剤師会会長、金沢町住)が藍綬褒章を授与された
4. 30 関靖の「金沢文庫の研究」が出版された
5. 1 関東配電株式会社常盤町営業所金沢出張所が、東京電力株式会社神奈川支店中営業所金沢出張所となつた
5. 1 谷津坂病院が生活保護法指定病院となつた
5. 16 尾山篤二郎(歌人、寺前町住)が日本芸術院賞を授賞された
5. 釜利谷町の満蔵院橋が完成した
6. 20 横浜市営金沢公益質舗が六浦町4, 109に開かれた
6. 釜利谷町の大川橋・坂の橋・北谷三の橋が完成した
7. 5 横浜市立八景小学校が泥亀町7に、横浜市立文庫小学校が寺前町195に、金沢小学校からそれぞれ分離し開校した。いずれも木造二階建1棟8教室である
7. 10 金沢区観光祭第1部みなと祭が瀬戸埋立地で開かれた
7. 12 横浜公共職業安定所金沢分室が寺前町10に開かれた
7. 神奈川県工業試験所に振興部が新設された
7. 釜利谷町の白山橋・宮下橋が完成した
8. 1 金沢区観光祭第2部燈籠流しが平潟湾で行われた
8. 「金沢保健所事業成績」が出版された
9. 10 水道局総務課長芹沢勇が金沢区長に就任した
(渡辺区長は西区長に転任)
9. 27 元逋信大臣小泉又次郎(87)の告別式が金龍院で行われた
9. 30 金沢区戦没者慰霊祭が称名寺で行われた(501人)
六浦町大道の山王橋が完成した

- 10. 5 横浜市金沢警察署が磯子警察署から分離独立した。初代署長（兼任）大津英男
- 10. 8 称名寺山門が後方にうつされ、補修された（通称赤門）
- 11. 30 逗子ドレスメーカー女学院金沢八景分校が金沢八景ドレスメーカー女学院（学院長小笠原三郎）と改めた
- 12. 夕照橋（もとの八紘橋）が完成した
- 12. 金沢高等学校が六浦町 4,730 の新築校舎にうつった
- 12. 湘南カトリック教会が金沢文庫カトリック教会と改めた

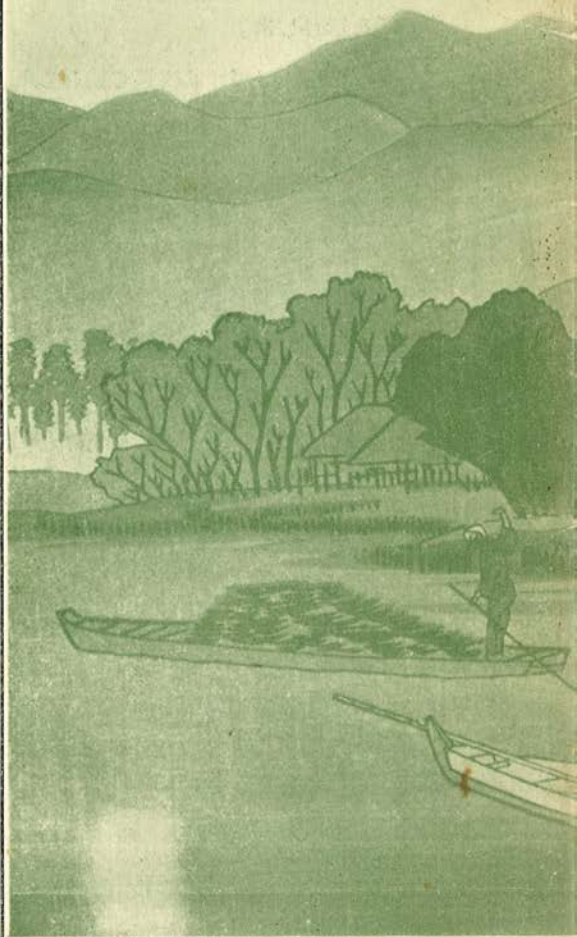
1952（昭和27年）

- 1. 5 関東学院大学に火災がおきた
- 2. 2 六浦町三艘谷戸の新道が開通した
- 3. 六浦町三艘の新川橋が完成した
- 3. 六浦町大道の里の橋が完成した
- 3. 金沢民生安定所が「社会福祉概要」を出版した
- 4. 21 八景小学校の増築校舎（木造二階建 1 棟 4 教室）が完成した
- 4. 1 横浜市立大学が文理学部を設けた
- 4. 「金沢保健所事業年報」（昭和26年）が出版された
- 5. 3 金沢風景絵画展が区役所二階で開かれた
- 5. 23 文庫小学校の第 2 期工事（木造二階建 1 棟 8 教室）が完成して、金沢小学校に委託授業中の児童（4.5 年全部と 6 年の 2 学級）が転入学した
- 5. 29 泰道繊維株式会社特需部（釜利谷町 1）が発展的解消をして、泰道化工株式会社横浜工場が設けられた
- 5. 富岡町の清水橋が完成した
- 6. 1 金沢小学校で「生活指導」（1～4集）が出版された
- 6. 20 富岡学園が再建され收容児が復帰した
- 6. 24 金沢警察署の新庁舎（木造二階建 128.9 坪）ができた
- 6. 舟越康寿「金沢称名寺々領の研究」（「横浜市立大学紀要」9.10号）が出版された
- 6. 柴漁港防波堤の復旧工事が完成した
- 8. 25 石川島コーリング株式会社（資本金100,000,000円）が富岡町に設けられた
- 8. 六浦町の南川橋が完成した
- 9. 釜利谷町の宮川橋が完成した
- 10. 1 横浜市金沢消防署が磯子消防署から分れて独立した

10. 1 金沢小学校で「社会科作業单元」(1. 2. 3 集)が出版された
10. 21 株式会社大石商事興業部キリン座ができた
11. 11 神奈川県工業試験所振興部が「業務報告」(昭和26年度)を出版した
11. 朝比奈町の金の橋が完成した
12. 1 富岡・金沢・六浦・釜利谷の4地区事務所が廃止され富岡吏員派出所が設けられた
12. 1 金沢民生安定所が町屋町57に移った
12. 1 京浜自動車工業株式会社が逗子町から六浦町 4. 831に移った
12. 8 財団法人育成会谷津坂園ができた

1953 (昭和28年)

1. 24 港都建設総合企画室主幹永堀豊が金沢区長に就任した(芹沢区長は鶴見区長に転任)
1. 関東学院高等学校・中学校が南区三春台の本校と分離し関東学院六浦高等学校同六浦中学校と改めた
1. 吉田祐暉彦編集「六浦論叢」が関東学院六浦会で発行された
2. 6 株式会社東急横浜製作所が東急車両製造株式会社と改めた
2. 28 金沢小学校児童文集「かなざわ」(1~7集)が発行された
2. 日平産業株式会社が武器・火薬類の生産許可を受けた
3. 2 横浜工機株式会社が旧大阪光機会社を合併して谷津町12に設けられた
3. 「聖書と神学」(年2回刊行)第1号が関東学院大学基督教研究所から発行された
3. 六浦町三艘の汐見橋が完成した
3. 野島橋の修理が完成した
4. 1 六浦町関東学院小学校が南区三春台の分校と分れて、関東学院六浦小学校と改めた
4. 1 大道幼稚園(園長六浦喜枝)が六浦町 3, 124 にできた
4. 10 白梅保育園(園長小泉金助)が六浦町 1, 650 にできた
5. 12 関靖が日本学士院賞を授賞された
5. 15 金沢区発足5周年記念式典が金沢小学校講堂で举行された。



凡 例

○ 本年表の記載範囲は中世から昭和28年（区制5週年の記念日）までとした。

○ 暦年はクリスト紀元と日本年号を併用し、（ ）は日本年号を示めした。

○ 明治5年以前の日づけは旧暦で表わした。

○ 記 号

△ 記事のはじめに 8. 24 とあるのは 8 月 24 日のことを示めした。

△ * はその年の年月不明を示めした。

△ 人名のあとに（ ）に入れた数字は年齢。

△ 記事のおわりに（伝）とあるのは文献に見えてい
るが確実と断定できないことから。

△ 重要記事はゴヂツク体を用い他と区別した。

☆ ☆ ☆

昭和 29 年 3 月 31 日 発行

編 集	横 浜 市 金 沢 区 役 所 戸 籍 統 計 課
発 行 所	横 浜 市 金 沢 区 役 所 横 浜 市 総 務 局 総 務 課
印 刷 所	西 岡 印 刷 株 式 会 社

